

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数（2015年12月）の予測

発表日：2016年1月29日（金）

～一致、先行とも2ヶ月連続の低下を予想。景気停滞感は強い～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○一致、先行とも2ヶ月連続の低下に

内閣府から2月5日に公表される2015年12月の景気動向指数では、C I一致指数を前月差▲0.6ポイントと、11月の▲1.4ポイントに続き2ヶ月連続の低下を予想する。景気の停滞感が強いことを示す結果になるだろう。12月の内訳では、鉱工業生産指数や生産財出荷指数、投資財出荷指数など、生産関連での押し下げ寄与が大きいとみられる。

本日公表された12月の鉱工業生産は事前予想を大きく下振れ、2ヶ月連続で低下した。10-12月期で見ると前期比+0.6%と小幅上昇だが、4-6月期、7-9月期の落ち込みの後には物足りず、生産活動は弱い動きとなっている。また、15年10-12月期のGDP成長率も大幅マイナス成長（前期比年率▲2.8%を予想）になったと予想されるなど、景気情勢は厳しい。10-12月期は個人消費や輸出、設備投資といった主要な需要項目がそろって低調に推移しており、景気は牽引役不在の状況にある。先行き不透明感も依然強く、景気の停滞感が解消されるには、もう少し時間がかかりそうだ。

また、12月のC I先行指数は前月差▲1.0ポイントを予想する。こちらも2ヶ月連続の低下。内訳では、日経商品指数や住宅着工床面積、M2、生産財在庫率指数などの押し下げが大きかった。C I先行指数からは、先行きの景気持ち直しはまだ見えてこない。

○基調判断は「足踏み」維持の見込み

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、前月に続いて「足踏み」が維持される見込みである。「足踏み」の定義は「景気拡張の動きが足踏み状態になっている可能性が高いことを示す」である。足元の景気が停滞していることがここでも確認される。

